

保護者の皆様

仙台市立作並小学校
校長 猪股 由美子

平成28年度 教育活動に関するアンケート集計結果について（お知らせ）

向春の候 保護者の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校教育活動に対し、ご支援・ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

さて、今年度実施した10月の「協働型学校評価に関するアンケート」及び12月の「教育活動に関するアンケート」にご協力をいただき、ありがとうございました。下記の通り集計結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

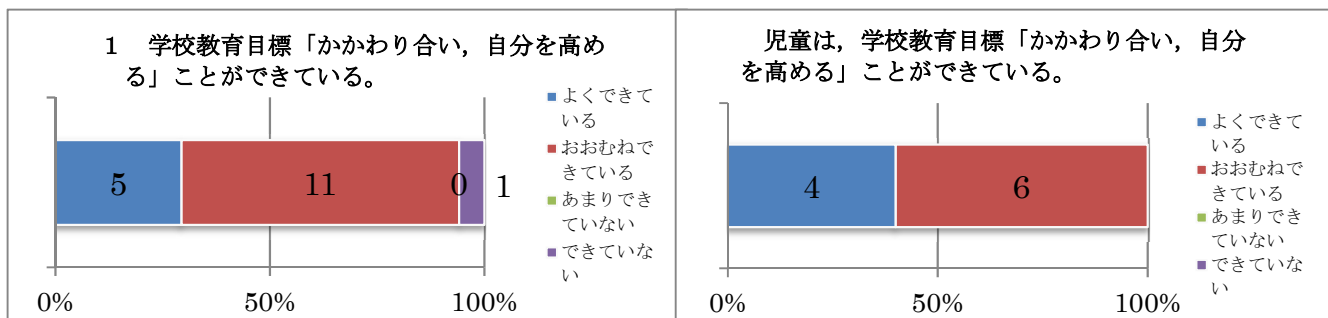
（合計数が合わないのは、評価できない項目が無記入になっているためです。）

1 学校教育目標

※数字は該当人数

保護者

教職員



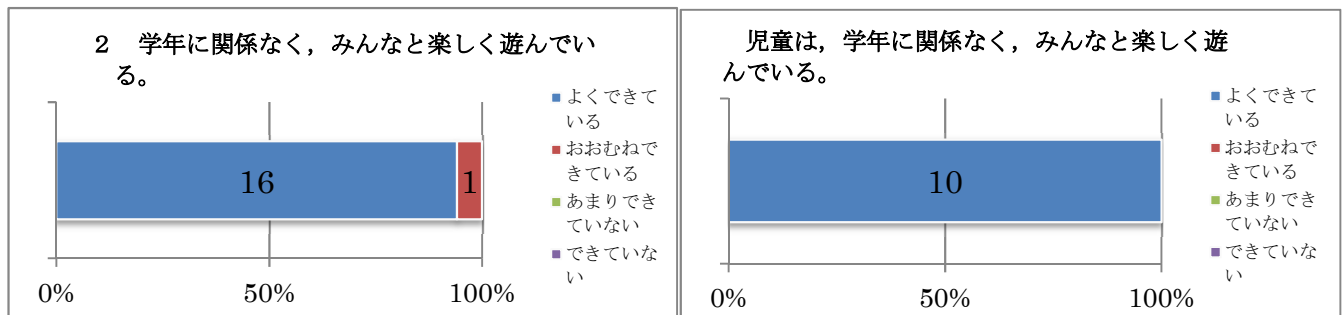
保護者、教職員ともに「よくできている」「おおむねできている」という評価が多数を占めました。三校交流学习や異学年での学習・活動・遊びなどのかかわりを通して自分の良さに気づき、よりよい自分にしていく姿が見られます。

2 目指す児童像

やさしい子・かしこい子・たくましい子

保護者

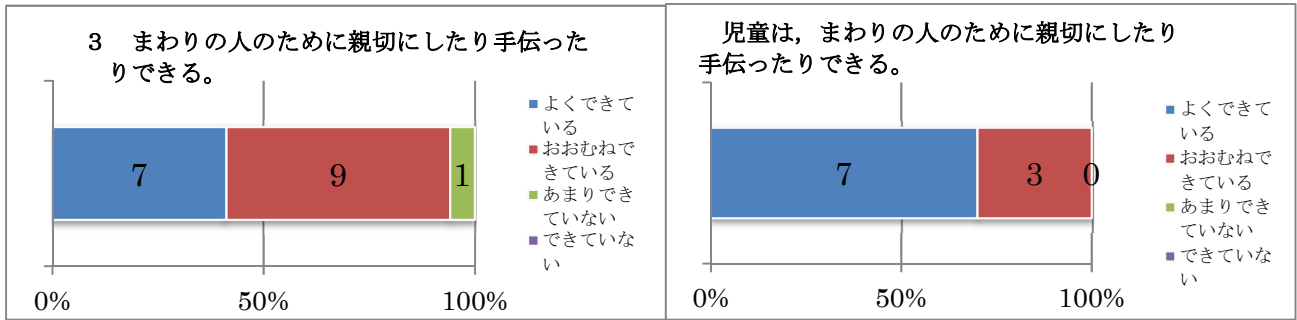
教職員



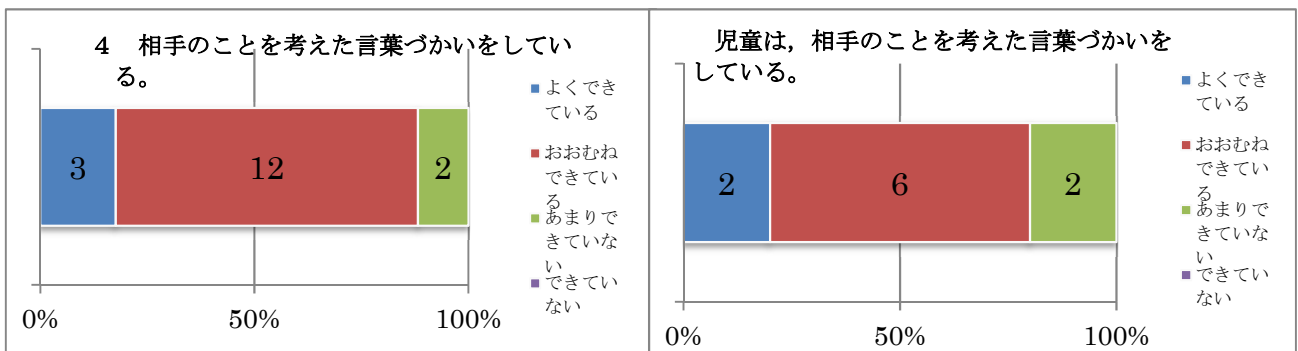
夏休み前から全校でドッジボール遊びが流行し、始業前、休み時間、放課後には、異学年で遊んでいる姿よく見られました。全校オリエンテーリング、たてわり清掃、グループ・全校給食など学年の枠を越えた活動がこうした仲の良さを支えています。 1

保護者

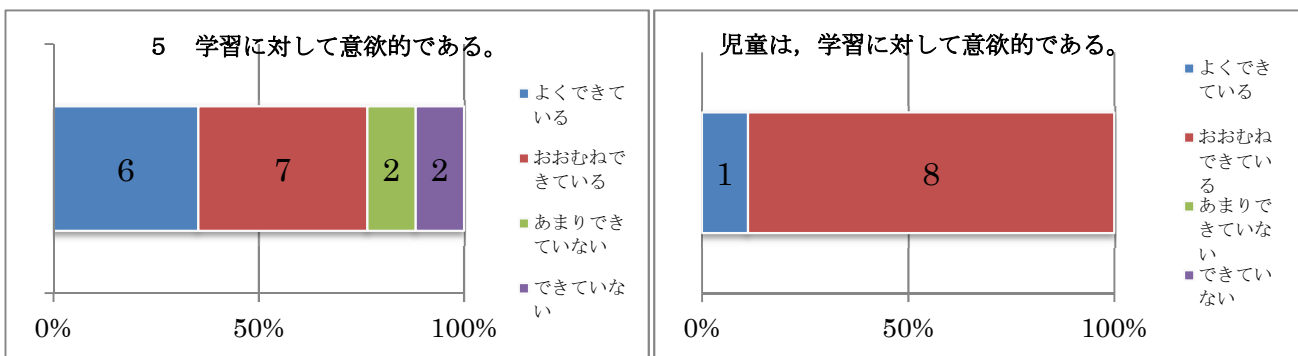
教職員



子供たちは人に対して親切にしたり手伝ったりすることがよくできています。友達だけでなく幼い子、お年寄りなど、やさしく接する対象を広げられるよう働きかけていきます。



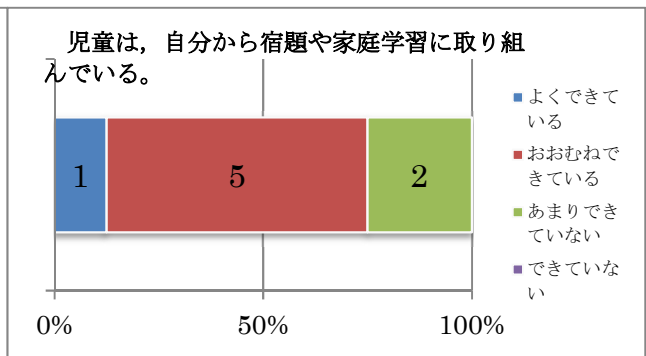
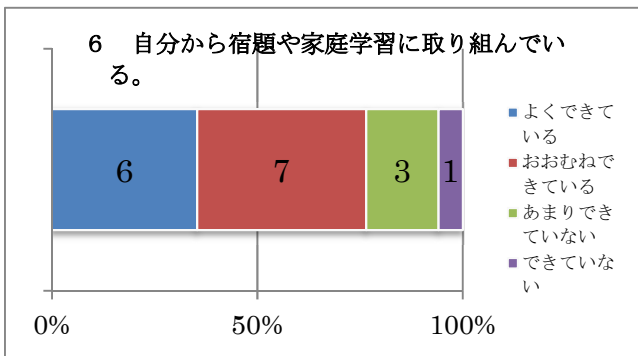
保護者、教職員ともに「よくできている」「おおむねできている」が8割を超えましたが、「あまりできていない」と感じる場面もあるようです。昨年より良い評価の割合が増えていますが、今後も「ふわふわ言葉」「チクチク言葉」等の指導を重ねていきたいと思えます。



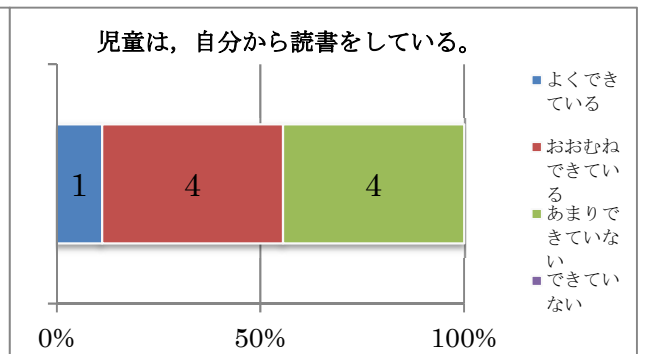
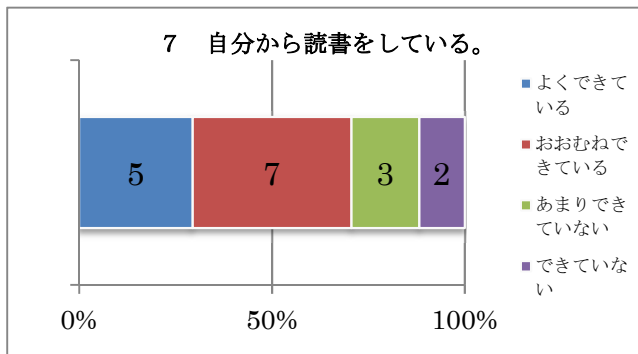
教職員の評価では「よくできている」「おおむねできている」と100%になりましたが、保護者の評価では8割に届きませんでした。児童の学習に対する意欲をより高められるよう、日常の授業づくりを工夫し、分かる授業を目指していきます。

保護者

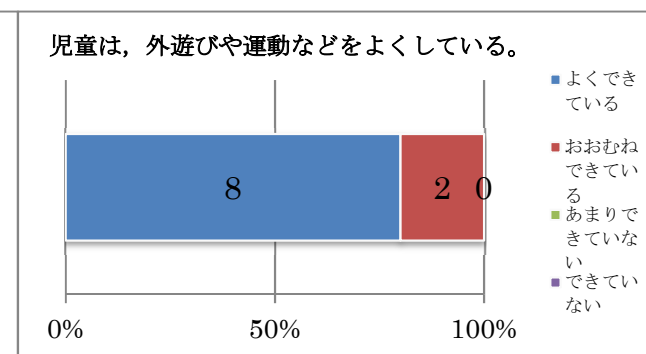
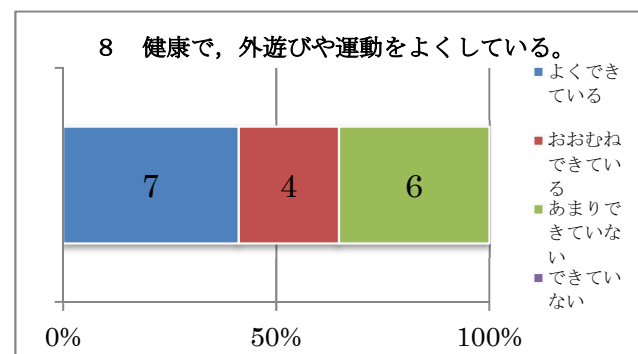
教職員



宿題や家庭学習に対する取組の評価は保護者、教職員ともに「よくできている」「おおむねできている」の評価は7割を超えました。他方、「できていない」様子もうかがえました。「家庭学習カード」の活用で子供たちに家庭学習の意識化を図ってきましたが、今後とも家庭と連携しながら家庭学習をしっかりと取り組めるようにしていきたいと思ひます。



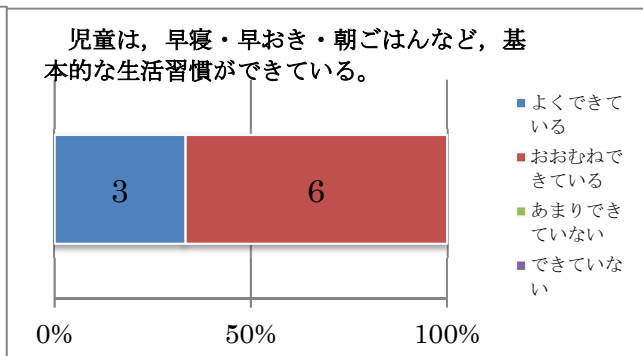
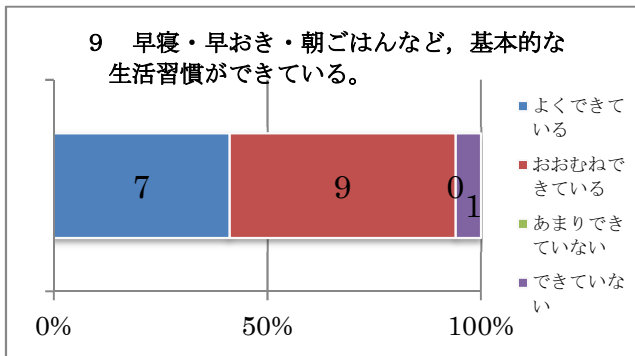
学校図書室から借りた冊数が100冊以上の児童がいる一方で、1冊も借りていない児童がいるなど、二極化が見られます。「読書タイム」やボランティアによる「読み聞かせ」、図書事務員による読書環境の整備、図書室を利用した学習機会の確保など、本に親しむ環境づくりを今後も進めていきたいと思ひます。



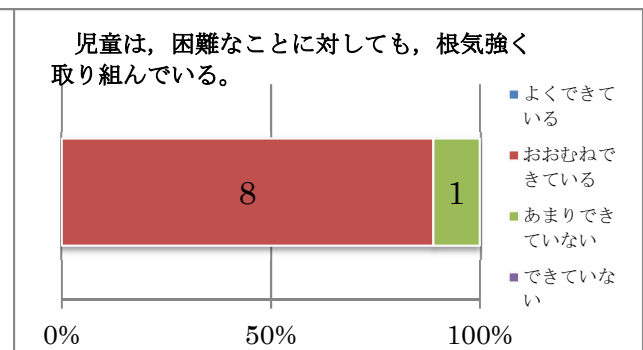
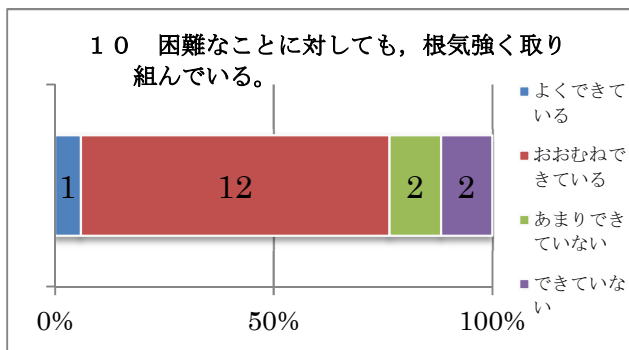
今年度はドッジボールに全校で熱中して取り組みました。学校では自発的な集団運動遊びが毎日のように見られましたが、家庭に戻ってからは友達の家と離れているため、体を動かしながら遊ぶ機会が少なくなっているのかもしれない。体育の時間を中心に体を動かす楽しさを伝えていきたいと思ひます

保護者

教職員



おおむね良好な結果となり、基本的な生活習慣が定着していることがうかがえます。「早寝・早起き・朝ご飯」は活力ある生活を送るもとです。今後ご家庭のご協力をお願いします。

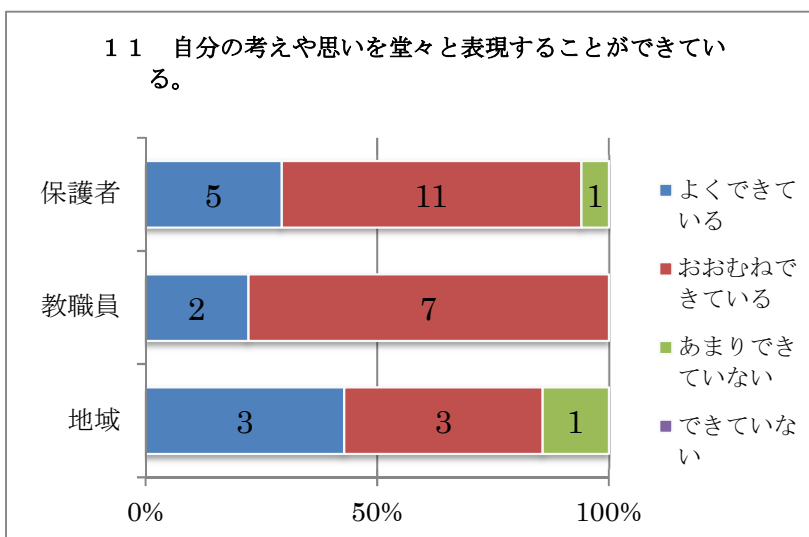


学校生活では子供たちの多くが根気強く取り組んでいるようですが、保護者の目から見るとがんばりが足りない面があるようです。これからも何事もやり遂げられるよう励ましていきます。

3 協働型学校評価重点目標

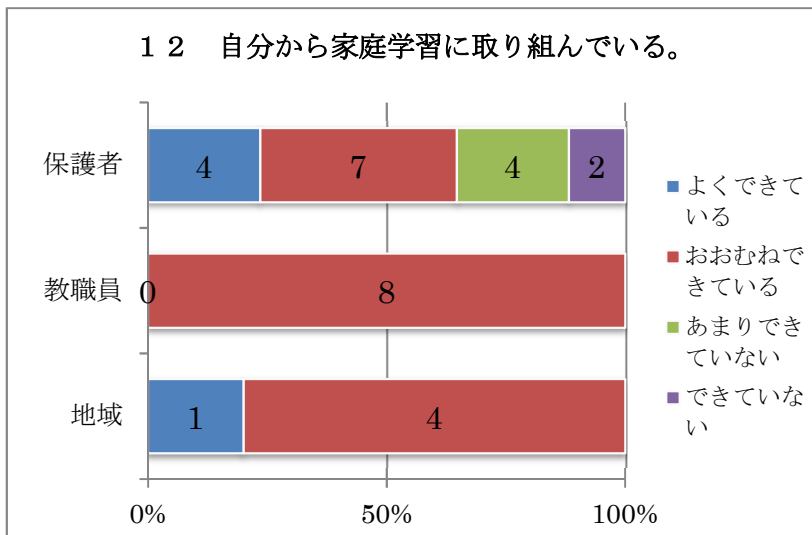
※数字は該当人数

重点目標について



保護者、教職員、地域の方々から見て、子供たちの多くが自分の考えや思いを堂々と表現していると評価しています。しかし、「よくできている」という評価は少数に留まっているのが、本校の課題と言えます。学校では少人数学級の利点を生かして授業中に発言する機会や集会等で発表する機会を多く設定しています。学校生活で養っている表現力を校外での学習や他校との

交流学習、地域の方々とのかかわりの中で生かせるように指導を積み重ねていきます。

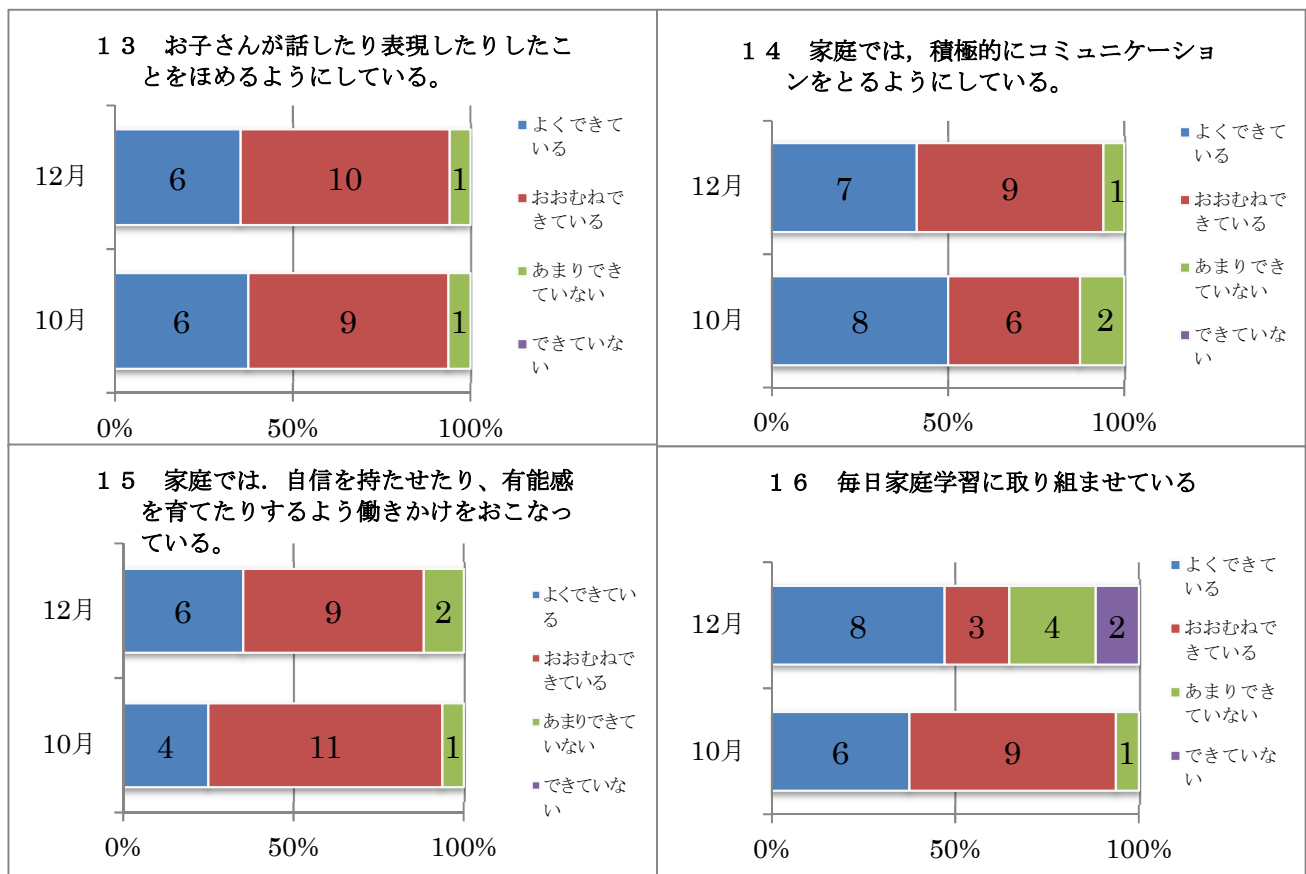


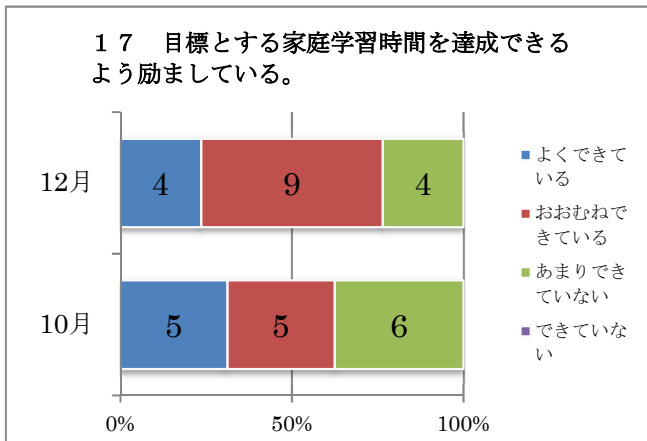
教職員の評価は「おおむねできている」となっていますが、保護者の評価は「できている」と「できていない」で二極化しました。出された課題（宿題）はきちんと取り組んでおり、担任の評価に反映していますが、保護者の皆様の回答からは取り組ませるまでのご苦労があることがうかがえました。自分から家庭学習に取り

組むためには、態度の育成はもちろんですが、学習に対する意欲や関心を育てていくことが大切です。進んで家庭学習に取り組んでいけるように指導を継続していきます。（教師による改善活動については P7 を参照してください。）

保護者・学校・地域による改善活動

保護者



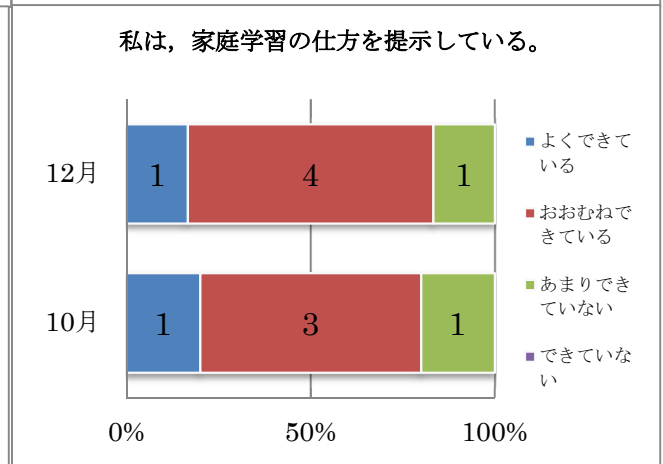
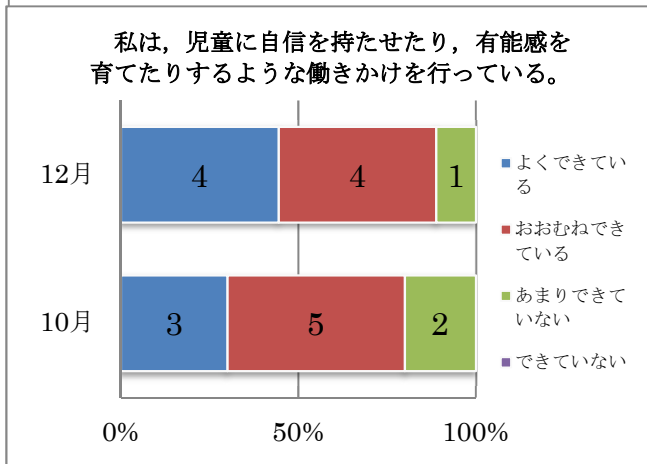
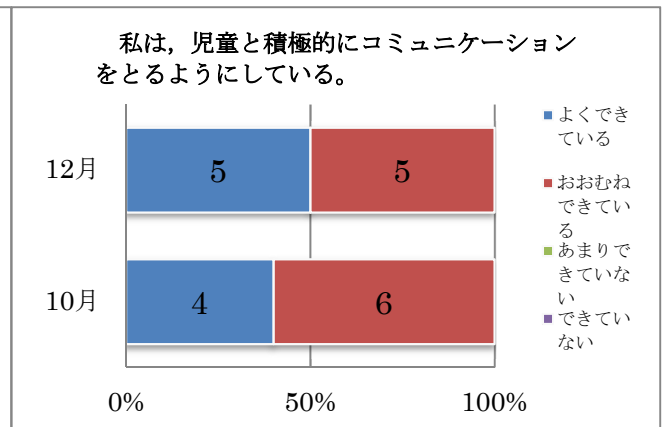
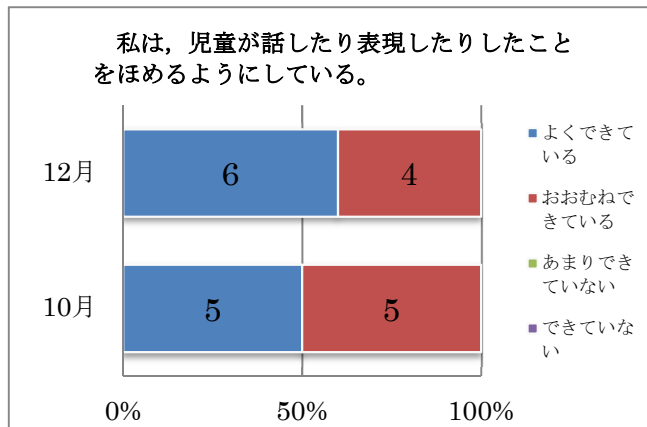


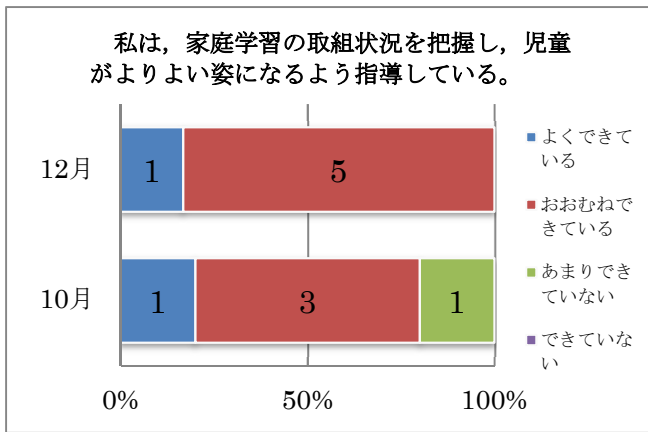
10月と同様に、子供たちが表現したことをほめたり、積極的にお子さんとのコミュニケーションをとったりされている様子がうかがえました。

有能感を育てる働きでは、「よくできている」割合が若干増えたものの、「おおむねできている」を合わせた割合では少し減少しています。お子さんに自信を持たせる働き掛けをこれからもお願いいたします。

10月と比べて毎日家庭学習に取り組ませることが「あまりできていない」「できていない」と回答した家庭が増えました。家庭学習の時間（目標 10 分×学年以上）が達成できるように励ましていただいておりますが、家庭学習に対する取り組み方、意欲を高めることが課題のようです。

教職員による改善活動



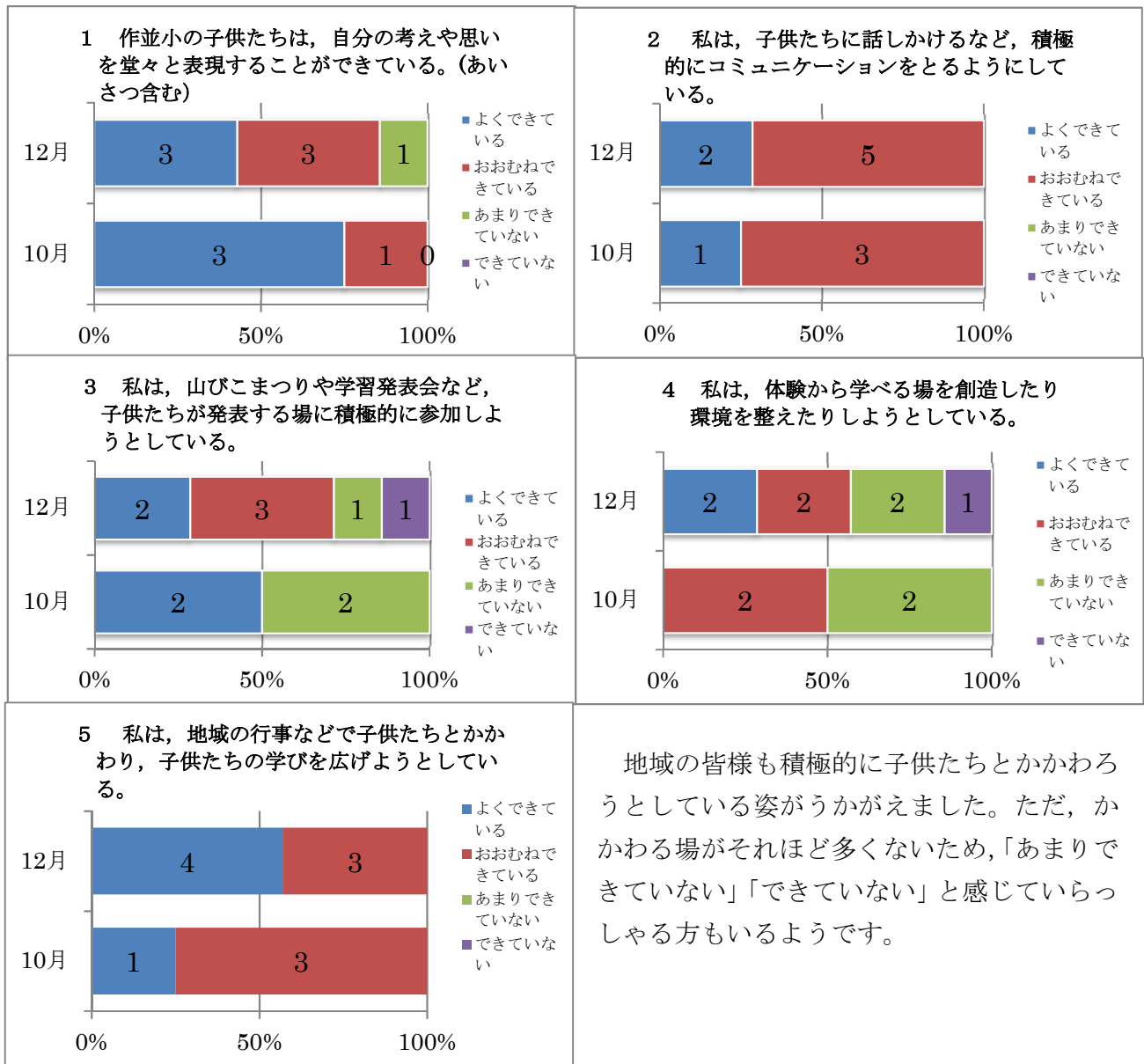


教職員も児童の表現力を育成するために、ほめたりコミュニケーションをとったり、積極的に働きかけています。授業では実物投影機、デジタル教科書などを活用し、児童の発表場面の充実を図っています。学校で培った表現力が家庭、地域などの実社会で生きて働くようこれからも指導に当たりたいと思います。

家庭学習は「家庭学習カード」を活用し、下学年は学習習慣の定着をねらいに日々実施

しています。上学年は、家庭学習の内容を例示するなど「自ら課題を持って」家庭学習に取り組めるようにしています。進んで家庭学習に取り組んでいけるように指導を継続していきます。

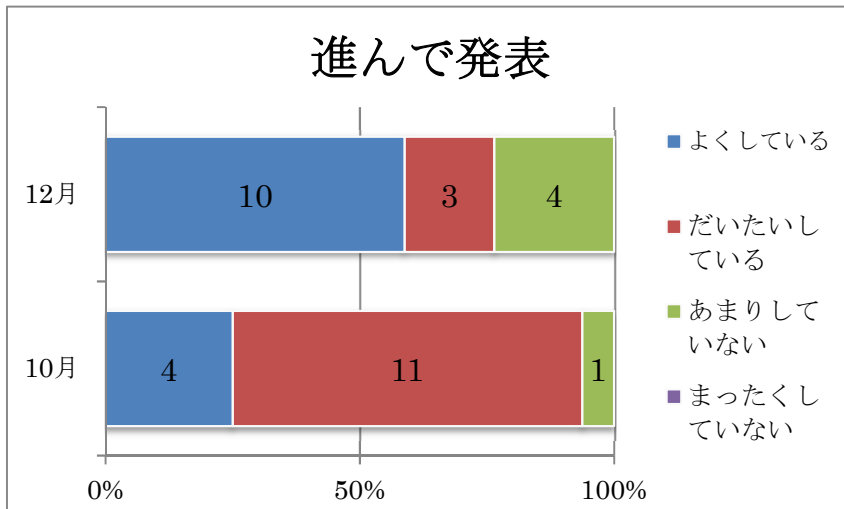
地域による改善活動



地域の皆様も積極的に子供たちとかかわろうとしている姿がうかがえました。ただ、かかわる場がそれほど多くないため、「あまりできていない」「できていない」と感じていらっしゃる方もいるようです。

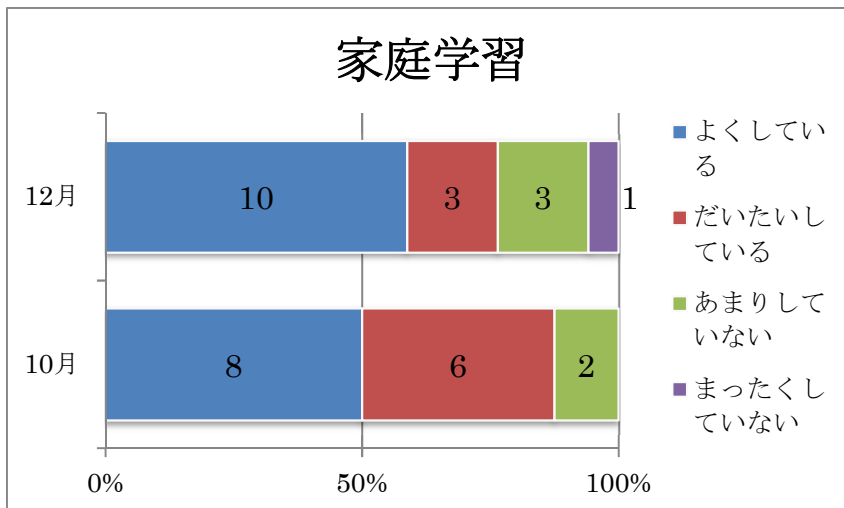
4 児童による協働型学校評価重点目標

進んで発表



授業中、「進んで発表しているか」の問いには、「よくしている」と答えた児童が増えています。他方「だいたいしている」と合わせた人数を比べると10月より少なくなっています。学習内容が難しくなっていることもあるかもしれませんが、自分の考えに自信をもち、発表できるように働き掛けていきたいと思ひます。

家庭学習



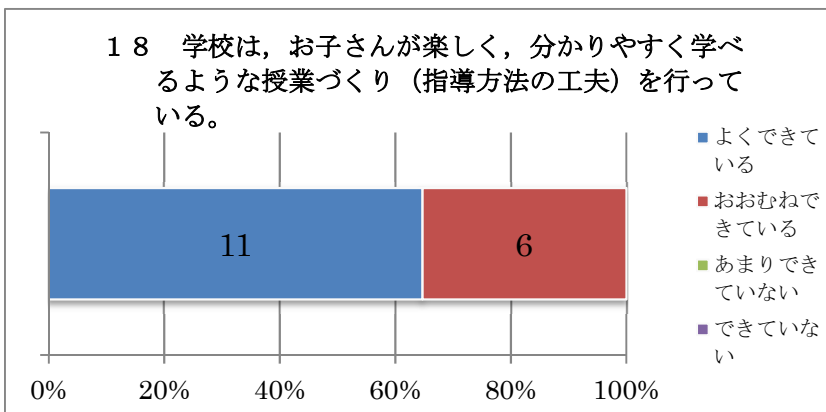
家庭学習については、「よくしている」「だいたいしている」を合わせた人数は10月より減少しました。「まったくしていない」と回答した児童がいたのは気になります。

「教職員による改善活動」でも書きましたが、「家庭学習カード」の活用や内容の例示など、進んで家庭学習に取り組んでいけるように指導を継続していきます。

5 確かな学力の育成

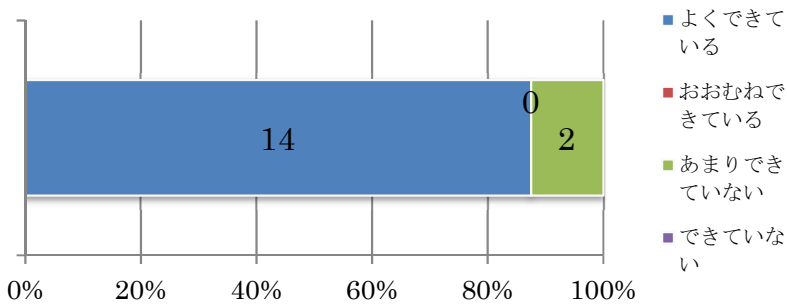
※数字は該当人数

18 学校は、お子さんが楽しく、分かりやすく学べるような授業づくり（指導方法の工夫）を行っている。



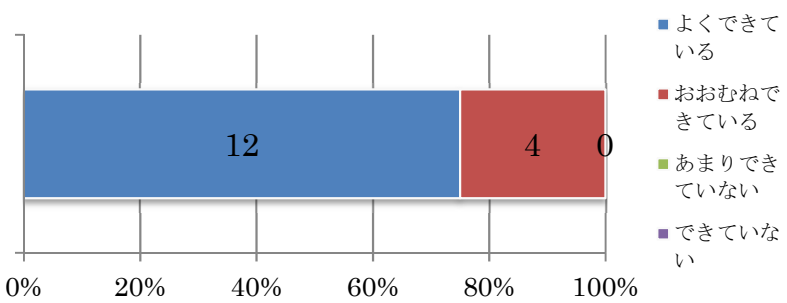
日常の授業でデジタル教科書を活用したり、問題解決的な学習などを取り入れたりして授業づくりを行っています。今後も職員研修（授業研究、実技研修等）を重ね、子供たちが学習に対して意欲・関心を持てるよう工夫していきます。

19 学校は、伝統文化教育を通して、郷土への愛着や我が国を誇りに思う気持ちを育てている。



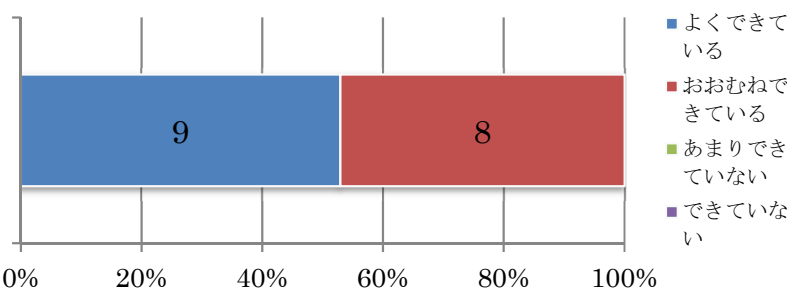
今年度も伝統文化教育を重点目標とし、よもぎ餅作り、箏、こけしの絵付け等の学習に取り組んできました。作並地域への関心、愛着を一層もたせるよう今後も取り組んでいきます。

20 「作並小漢字検定」は、児童の学習意欲を高めるとともに、漢字力を高めることに役立っている。



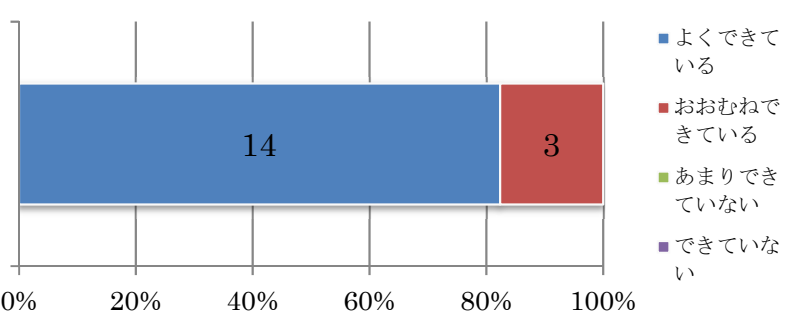
今年度も漢字検定を20回実施し、子供たちの漢字練習の定着を図ってきました。20回の検定を確保するため、休み明けに実施したり、次の検定までの間隔が短かったりすることがありましたので、子供たちの練習期間を保証できるよう実施方法の工夫を行っていきます。

21 学校は、望ましい学習習慣の形成のために、適切に学習訓練や家庭学習の指導を行っている。



今後も、授業中の約束を徹底し、規律ある学習習慣を定着させていきます。また「教職員による改善活動」(p6)にあるように「家庭学習の手引き」を活用したり、家庭学習の内容を例示したり、進んで家庭学習に取り組めるようにしていきます。

22 学校は、地域の人材や外部講師を活用して豊かな学びにつながる指導をしている。

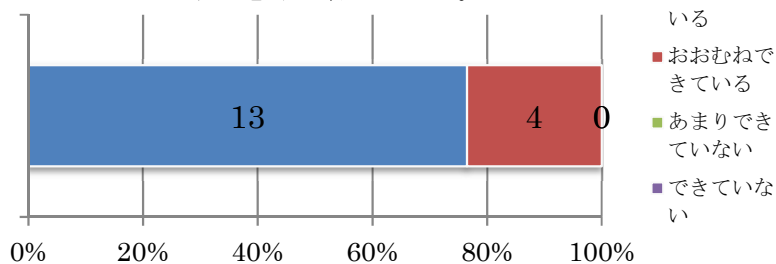


今年度も総合的な学習の時間(生活科)を中心に、地域の人材や外部講師を活用して学習を進めてきました。地域には多方面で活躍されている方々がいます。「地域の改善活動」(p7)で触れたように地域の方々が活躍する場がまだ十分とは言えないようです。

6 防災教育

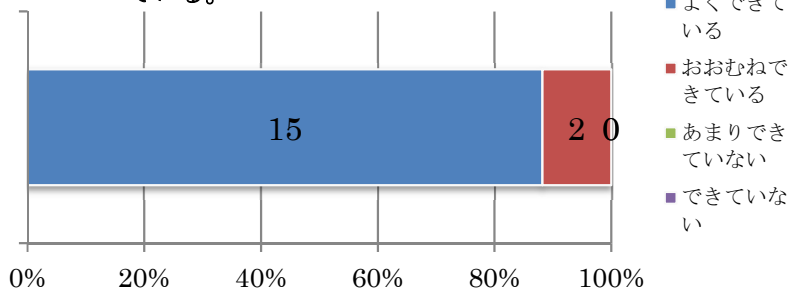
※数字は該当人数

2 3 学校は、防災教育や道徳教育を通して、お子さんに命の大切さや思いやり、社会のルールを尊重する意識を育てている。



防災副読本を活用した防災教育、道徳教科化に向けた道徳授業の充実をこれからも図っていきます。それらの授業を核として学校教育全体で命の大切さや思いやり、ルールを尊重する意識を育てていきます。

2 4 学校は、地震や火災想定避難訓練や地域合同防災訓練を通して、安全・防災教育の充実を図っている。

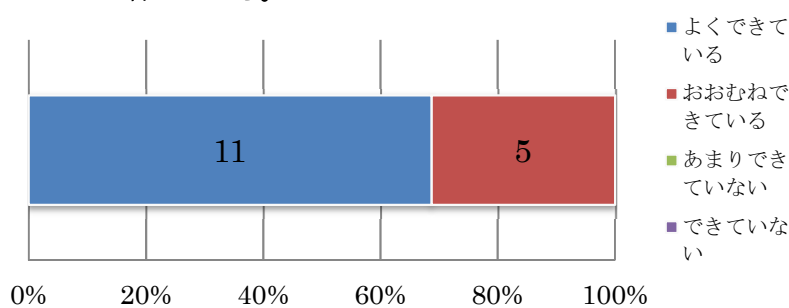


今年度も、地域と一緒に防災訓練に参加するなど、より実践的な防災教育に取り組みました。訓練日に「防災授業」を設定するなど、子供たちの防災意識を高めてきました。これからも子供たちが地域の一員として貢献しようとする心を育てていきます。

7 積極的生徒指導

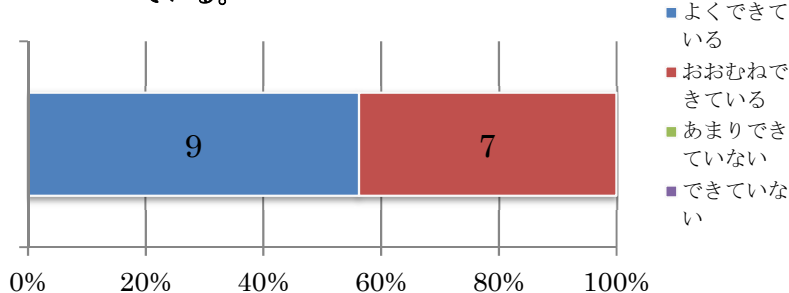
※数字は該当人数

2 5 学校は、いじめ未然防止に向けた取組を適切に行っている。

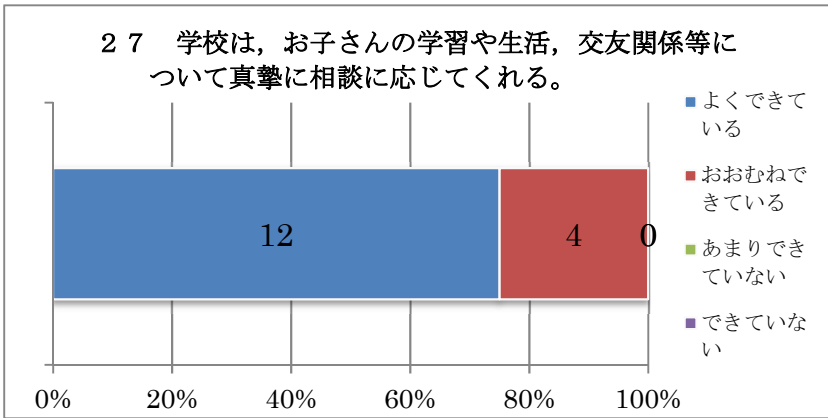


今年度も毎月の「いじめチェック」や2か月に1度の「いじめについての意識調査」を行ってきました。「いじめ防止『きずな』サミット」に参加した児童がサミットの様子を報告する場を設けるなど、全校でいじめ防止の意識を共有しました。

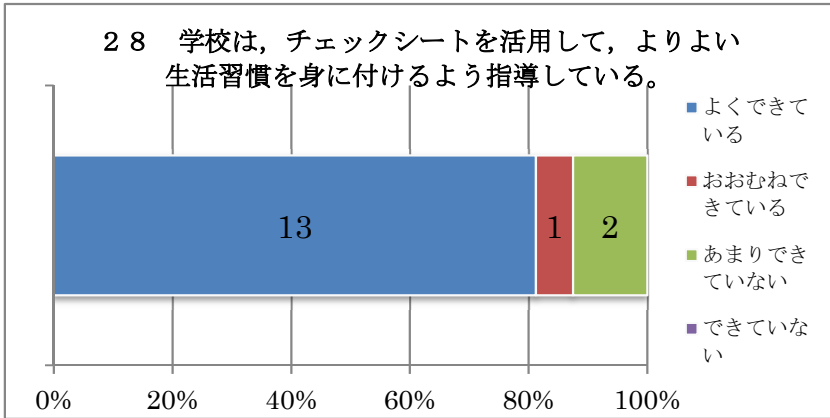
2 6 学校は、いじめが起きた場合、適切に対応している。



いじめが起きた場合、管理職への報告、情報収集、情報の共有、対応への意思統一など組織的な対応をしています。今後ともいじめ対応が迅速に、また適切に行えるよう職員の研修を積んでいきます。

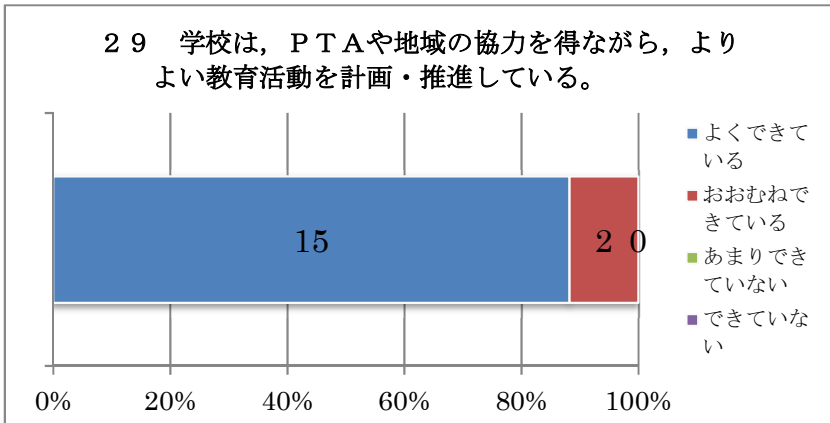


学校は、子供たちの悩みや課題、行動の変化等を把握し、生徒指導担当教諭、養護教諭、スクールカウンセラーを含めた相談体制をつくっています。今後もしっかり子供たちと向き合っていきます。心配なことは躊躇せずご相談ください。

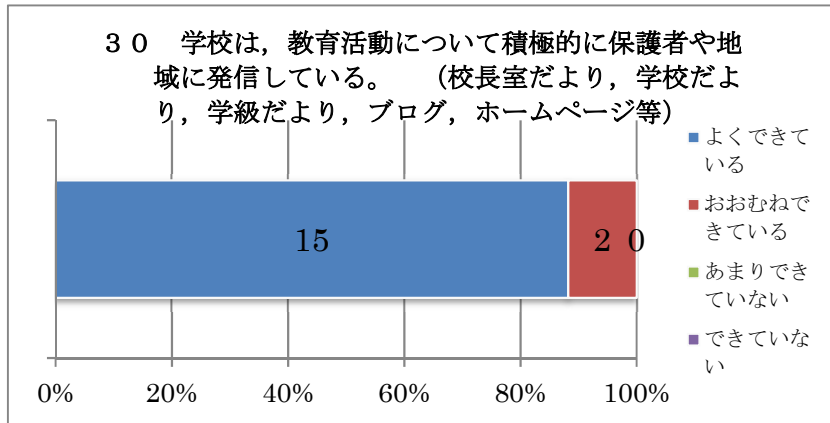


今年度も学校と家庭の連携で行っている「生活習慣チェックシート」を活用してきました。シートは生活習慣を身に付けるとともに、自分の生活を振り返ることに役立っています。今後ともシート活用しながらよりよい生活習慣を確立していきます。

8 保護者や地域との連携 ※数字は該当人数



先日もPTA役員の皆様のご協力により「雪と遊ぶ会」をスムーズに実施することができました。またスキー教室でも保護者や地域の皆様のご指導で子供たちの成長が見られる行事となりました。今後も子供たちの豊かな学びのためにご協力をお願いいたします。



今後も作並小の取組や子供たちのよりよい姿を随時発信し、本校の教育活動への理解を深めるとともに、学校、家庭、地域が同一歩調で子供たちの教育に当たることができるようにしていきます。